

第6回網走川ほか減災対策協議会
議事概要

日 時：令和2年6月30日（火）15：00～16：00

会 場：オホーツク・文化交流センター エコーホール

出席者：網走市長、大空町長、美幌町長、津別町長、北海道オホーツク総合振興局長、
網走地方気象台次長、陸上自衛隊第6普通科連隊副連隊長、北海道警察北見
方面本部警備課長補佐、網走警察署警備課長、美幌警察署警備係長、網走地
区消防組合消防本部消防長、美幌・津別広域事務組合消防本部消防長、網走
開発建設部長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 情報提供
- (5) 意見交換
- (6) 今後のスケジュール

【事務局からの説明を踏まえた、各機関からの意見】

(網走市)

- ・防災情報伝達手段として、2018に開局したFM あばしりを活用した放送機械の整備を行い、防災情報を伝達することが可能となった。また、FM あばしりと防災・災害時の協力協定を締結した。
- ・Jアラート情報及び市が実施する緊急告知放送により自動起動する緊急防災告知ラジオの整備を行い、高齢者など配慮が必要な方々に貸与した。
- ・テレビのデータ放送、お知らせメール@あばしり、SNS、広報車、FM あばしり、緊急告知防災ラジオなどを情報提供手段として用い、気象情報を踏まえた早めの告知、避難の周知を行いたい。
- ・避難者には、通常の避難グッズのほかにマスク、消毒液、体温計等の持参等をホームページで呼びかけている。
- ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、市内小中学校を中心とした施設を避難所として開設することを考えている。
- ・避難が長期に及ぶ場合は、他施設への集約または学校の授業が再開された場合を想定し、避難者と児童生徒の区分が実施できるように考えている。
- ・避難所入り口で、検温等、健康状態を確認し、健康な方と体調の悪い方に区分の上、避難者スペースを確保することを考えている。
- ・避難所開設訓練は、学校の夏休み期間中に実施したいと考え、関係機関と協議していきたい。

(大空町)

- ・非常用電源を備えている網走信用金庫女満別支店に一時避難所を開設できるよう協定を締結した。

- ・女満別川やサラカオーマキン川の河道掘削を進めて頂いている。
- ・網走川の女満別湖畔で網走開発建設部が整備中の河川防災ステーションについては、用地確保などを順次進めている。
- ・美幌町にある古梅ダムが、町と国との協定を結び洪水調節機能を受け持つことになったのは、大変心強いことだと思っている。
- ・避難所における感染予防対策として、マスクや消毒液、ペーパータオル、段ボールベッド、パーティション等の衛生資材の購入・備蓄を進め災害時の避難所運営に当たりたい。
- ・毎年9月に実施している防災訓練は、町民を多数集める方式ではなく、職員を中心に新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインを参考に避難所の開設、運営のあり方を中心とした訓練を行いたい。

(美幌町)

- ・5月に改正された北海道版避難所マニュアルに基づき、避難所運営マニュアルの見直しを行っており、避難所の開設訓練に感染症対策を盛り込んで実施する予定。
- ・昨年までは、1校しか防災学校をしていなかったが、今年度は3校全部で防災学校を実施する。
- ・防災行政無線のデジタル化に伴う周波数帯域の見直し等を実施する予定。
- ・津別、美幌、大空、網走という流域全体で防災情報を伝達する方法について何かいいアドバイスがあればいただきたい。流域内の全市町でFM あばしりの受信ができるようになれば災害時の情報共有に役立つ。

(津別町)

- ・防災基本計画では、指定避難所に向かう単位が自治会単位となっているが、健康な人と、せきや発熱のある人、濃厚接触された人等に分けて受け入れる方法を検討しなければいけない。
- ・避難所の備蓄品の管理が十分でない箇所があったため、防災倉庫の整備を進めて行く。
- ・旧校舎を避難所としている箇所は、使用するための準備に時間がかかり過ぎるので、避難所の指定見直しも今後必要だろうと実感している。
- ・昨年、ハザードマップが更新され、出前講座で自治会独自に意見交換をしているところも増えてきており、防災意識が高まっていると考える。
- ・平成4年台風被害で道道が通れなくなった区間があり、住民からこの区間（北海道管理河川）を含めて護岸を直してほしいという要望が毎年各自治会から上がっている。少しでも早い改修ができればと思っている。

(網走地区消防組合)

- ・東日本大震災以降、また平成25年に策定された消防団を中心とする地域防災力の充実強化に関する法律の施行と相まって、消防団に対する装備の充実強化を進めるとともに、取扱い訓練等を実施している。
- ・消防団員の構成を見ると、農業や漁業に従事される消防団員が多く日ごろから重機を扱っている方も多いため、災害のときは一時緊急避難的にそういった資機材を活用して対応してもらうことも十分考えられる。
- ・組織力やマンパワーの活用は、消防団の責務であると思っているので、今後も団員の確保や教育・訓練等に努めていきたい。

(美幌・津別広域事務組合消防本部)

- ・水害発生時には早期に対応できるように消防職員、団員の救命胴衣、胴付き長靴、雨具、水防活動用の装備品を随時整備し、初動体制の充実強化を図っている。
- ・現在、美幌と津別に建設中の消防庁舎は、持続可能な消防活動の拠点となれる施設として整備を進めている。
- ・関係機関との情報共有や連携は大変重要である。町や自治会をはじめ関係機関が実施する防災訓練に積極的に参加し、消防職団員一体となった協働作業、防災指導・啓発に努めたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・新型コロナウイルスの関係で、各自治体で避難所運営のあり方を変えていく取組に付随して救助の仕方や避難所の警戒の仕方等を変えていく必要があると感じている。計画、マニュアルの作成段階で構わないので声かけしてほしい。
- ・北見方面本部は災害救助の部隊を独自に配置しており訓練を進めている。各自治体で防災訓練を実施する際は是非訓練の機会を与えてほしい。

(網走警察署)

- ・地域住民の方々から、情報提供があった場合には関係機関の皆様に逐一情報提供し、平素から迅速な避難活動のための取組を進めていきたい。
- ・万が一災害が発生してしまった際、迅速な避難誘導ができるよう、訓練等の際はぜひ参加させてほしい。

(美幌警察署)

- ・住民に対する防災講話や災害時対応訓練や詐欺対策の広報活動などを実施しており、その際に防災意識を高める文面を載せたチラシ等の配布を行っている。
- ・過去の被災箇所等を知らない町民にも周知してもらうよう、台風被害の写真パネル等による広報、啓発を実施している。
- ・災害等に対し日頃からの備えが大事であることから、備えの重要性について今後警察活動を通じて説明していきたい。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・自衛隊として、プッシュ型災害派遣という形で地方自治体の皆様に協力したい。第6普通科連隊では、初動対処部隊という形で速やかに出られる部隊を準備させているので、連絡幹部を通じて当初から連携させていただきたい。

(網走地方气象台)

- ・防災減災への取組として、地域の避難訓練、学校の防災教育等に取り組むとともに、各機関に協力いただき普及啓発に注力していく。
- ・防災情報提供システムというネット環境上で見るツールのIDを各機関に配布している。出水期の留意点として、气象台を上手に使っていただき各機関の防災体制の構築に利活用してほしい。

(北海道オホーツク総合振興局)

- ・ 情報伝達機器整備の取組について、平成30年度より令和2年6月にかけて危機管理型水位計を設置し、令和元年度には水害リスクの高い箇所には簡易型河川監視カメラを設置している。
- ・ 避難情報等の伝達に関して、避難勧告等に関するガイドラインの変更を踏まえて、令和元年12月に魚無川において改良型の避難勧告着目型タイムラインを作成した。今後、実際の洪水状況において地域の課題を検証しながら、必要に応じてタイムラインの見直しを行っていきたい。
- ・ 今年度以降の取組として、昨今新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所マニュアルの改正を行っている。地域の実情に合わせた避難所の感染症対策等に活用してほしい。
- ・ 本年6月には、この改正マニュアルに基づく3密を防ぐ避難所の開設、手順等の確認を恵庭市で実施しており、7月には北海道防災総合訓練を室蘭市で開催し、感染リスクを避けながら避難所を運営する手法や、避難準備への注意喚起の手順等の検証を行う。後日改めて検証結果等をお知らせしたい。
- ・ 市町村で実施される防災訓練に対する道の支援として、道の危機対策課に防災の経験、訓練ノウハウを有する自衛隊OBの職員いるので、お困りの市町村がございましたら御連絡いただければと思う。
- ・ ハザードマップの作成や水防資材の購入費用などを補助する事業があるので、何かございましたらご相談いただきたい。

以上